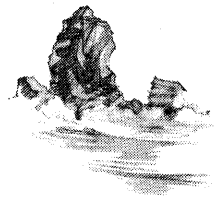


のぞましい  
「幼稚園の先生」  
「保育所の先生」  
を求めて



山 村 基 よ

毎年、多くの学生（卒業生）を幼稚園・保育所に送り出してからいつも彼女らのことを気にしてきたが、今年は、とくにいろいろと複雑な感情でやるせない。

学生時代には、あんなにはりきっていた学生が……前むきで体あたりのできる学生が……何名かは、一年でもう職場を替えたいといってきたり、あんなに夢をもってとびこんで行った職場なのに、わずか二年間でやめてしまつて、結婚でもないのに……と。こうしたことは幼児教育界だけに限らず現代の若者たち共通問題といつてしまえばそれまでだが、とにかく幼児教育者を志して保育科に学んだ人たちだからと私は残念で仕方がない。全国の公私立幼稚園の調査でも在職期間は二年〜三年が多いと聞いて、現代の若者に共通する気持と自力でことを進めたい、自分の可能性をたしかめたいなど、などの）おとな

たち（とくに園長）のいろいろなおくそくと（ひとりではできましくなくせに、口だけで実行力もなくせに、など）がぶつかつて、こうした現象を生みだしているのかしら？ また教員養成の内容に問題があるのではないだろうかと自分自身を反省してみた。また反面には幼稚園、保育所共に何かがあるのでは？ と思うこと度重なるこのころではある。

中教審の答申も終わり、多くの問題を持ちながら、四十九年度からはきつと幼稚園や保育所の上に何かまた「新しいなやみ」が起ころうかもしれない。どんなに制度に守られても、幼稚園・保育所の園舎や環境がよくなつても「よい先生」に恵まれないことも私たちは不幸だと思う。「きょうも一日はりきつてたのしくて、明日はどんなたのしいことが待っているだろう」と希望に満ちた毎日毎日をたのしく力づよく送り迎えて「生活の相手」

をしてくださる先生を求めたい。

こうした「よい先生」を一人でも多く現場に送り出したいものである。そして石の上にも三年というが「三年間は絶対にこの幼稚園から、否、このこどもたちから離れられない」と覚悟ができるような職場に送り出したい。

そこで私は今回現場の先生方からの声をききたくて、アンケートをお願いしてみた。短期間に回答率をよくするために私の関係する講習会や研修会の会員の方々を通じて、一、六〇〇枚余りの調査表を渡して約50%余りのご回答をいただいたが、項目の内容が理解されなかったり、また研修会場の帰りがけなど忙しい時間で全部を記入していたたく事が不可能なこともあって、正確な%など出し得るものでもなく、また地域的に片よっているうえに、年齢層などにも非常に開きがあるので、充分に幼児教育者としての意識らしいものを感じることはできなかったが、私は八〇〇名余りの回答してくださった先生方に感謝の気持ちをこめて、誌上を拝借して報告したい。

誌面の都合で、各項目別に考察しながらの細かい報告はできないので文章で記入してくださった箇所を中心にして、幼稚園や保育所の先生方が「今一番やんでおられる事は何か」を記してみた。

八百枚にのぼる調査用紙に記入された細かい文字と一枚一枚

たんねんに読みとり、ノート二冊にうつしとった。同じ意味のものを重ねていって多いものからだんだんと記すこととした。

#### A-2 教育を聖職と認めますか

自分ながらこのことばの表現は実にまずかったと思う。とくに若い人たちは、非常に抵抗を感じたことと想像していたが、思ったより抵抗も少なく無記入はわずかだった。「はい、282」「いいえ、271」「その他、144」となって表われ、「いいえ」と記された人の中にも調査用紙全体からみて（とくに俸給の要求額、反省欄）奉仕的態度の表われていることを感じた方があり、うれしかった。「いいえ」の数は、保育所の先生方の中に少し多く見られた。

A-3 担任する幼児をどんなこどもに育てたいと思いますか  
この項目はB-2「今のこどもに欠けていると思う点は」とからみ合っているもので、最近の幼教誌のことばや、文字と同じようなものも見られたが、（創造性、自主性、夢のあるこどもなどそれぞれの園の教育目標なことばが多い）先生方の生の声らしきことの一歩多く重なったものだけを記しておく。（内は代表的なことば。

1 自主的に自分の歩むべき道をきめて、力強く世の中を渡る

幼児教育者の意識調査

県	公	私
	幼	保

○経験年数

年

○年齢

歳

A 保育者としての姿勢について

- 1 幼児教育者としての精神を何によって学ばれましたか。  
(講習会の先生。著書。とくに尊敬する先生から。)
- 2 教育を聖職とみますか。(はい、いいえ、その他)
- 3 担任する幼児をどんな子供に育てたいと思いますか。  
(
- 4 幼稚園に勤務した理由 ( 保育園 / (
- 5 あなたは自分で子供好きだと思いますか。(はい、いいえ)
- 6 保育を生涯の仕事と考えて居られますか。(はい、いいえ)
- 7 保育があなたの性格に適すと思いますか。  
(最適、普通、いいえ)
- 8 結婚してもつづけて居られますか。(はい、いいえ)
- 9 家庭の仕事と勤務と両立していますか。(はい、いいえ)
- 10 結婚したら出来ないと思う理由 (

B 現在の勤務状況から

- 1 学生時代の夢が実現していますか。(はい、いいえ)
- 2 今の子供に欠けていると思う点は  
(
- 3 現在の仕事がスムーズに運んでいますか。(はい、いいえ)
- 4 仕事はスムーズに運ばなくても勉強はできますか。  
(はい、いいえ)
- 5 保育の上で悩んでいること。  
(
- 6 仕事がスムーズに運ばぬ理由。  
(
- 7 金銭的待遇は満足ですか。  
(やや満足、いいえ、現在の俸給 円)
- 8 現在やや安定した生活をするためにどの程度必要ですか。  
( 円位)
- 9 その他幼稚園、保育所に起きている問題点。  
(

C 今後に期待すること

- 1 今後の幼児教育に何を期待されて居られますか
  - ・制度のこと(今のままでよい、義務化して金銭的助成、その他)
  - ・保育内容 (
  - ・1人の担当人数 名まで
  - ・その他
- 2 自分自身の反省  
(
- 3 園長、又は上司に期待すること  
(

こどもに、(この中には実行力のあるこども、いきいきとしたこども、困難にうちかかって前進するこどもなどがある)

2 明快、元気ですなおに(この中には健康で明るく、積極的に生きる喜びを感じるこどもなどはいる)

3 他人の立場を考え、迷惑をかけないように(この中には、善悪のけじめを、社会に適應できるこどもなどがある)

4 勇気のあるこどもに(この中には、こどもらしく、よいことも、わるいことも、はっきり表現できるように、根性のあつるこどもに)

5 心身共にたくましいこどもに(4の項目と同じような意味にもとれるが、もっと野性的で、素ぼくさを表わしたいようにかがえる)

6 個性のある想像力豊かなこどもに(人間味豊かなおおらかなこどもらしいこども、創造力、夢のあるこどもなど「情緒的なやわらかさをねがっている」と思われる文字がたくさん書かれている)

以上のほかに宗教的な「愛、幸福、神を信じさせたい」など、非常に幅広いねがいがこめられていて、それぞれ「人格形成」をねらいとしておられる正しい意味の幼児観ものぞかれ、ほつとした感じである。四十五以上にわたる文章の中から先生方の姿勢、苦心のほども察せられる。

B-1 学生時代の夢が実現していますか

この回答がつねに私の心配していることと一致し、「はい」「いいえ 316」とくに無記入の多いことがよりいっそう心配なことに思う。

B-3 現在の仕事がスムーズに運んでいますか

B-5 保育の上で悩んでいること

B-6 仕事がスムーズに運ばぬ理由

右の三項目はかわり合いがあるのでまとめて考えてみることにした。たくさん文章をかきぬきながら同じ意味のものを重ねてゆくと、がぜんトップになったのは「幼稚園、保育所には雑用が多すぎて勉強もできないし、また身心のつかれが非常に大きい」ということがのぞかれる。

1 職員の間関係がむずかしい(職員間の和がとれない、意見がいれられない、話し合いの場なし、保育の上での意見の不一致など)

2 保育以外のことに時間をとられて勉強する時間がもてない(保育以外の雑用、金銭あつめ、掃除、何だかつねに時間に追いかけて、園長が使用人扱いをする)

3 混合保育の場合、年齢差をどのようにしたらよいか

4 保育がマンネリ化しそうに思う

5 長時間保育（保育所より）

6 保育効果があがっているのかいないのか？

7 多人数保育のため

8 二人制保育でやりにくい（責任がもてない）

9 勤務園の保育方針が理解できない

10 全部一年保育であるため、入園までの成長の差がはげしく目標までのばしていけない

以上のほかに勤務については（3、6、に人手を増してほしいとか、施設設備をよくしてほしいなど。次の9、に重なっていることは省略）保育上の問題では指導技術の細かいことにならぬでふれて三十項目以上にも及んでいるが、これはまた別の機会に指導を含めた意見をまとめるつもりである。

### B-9 幼稚園、保育所に起きている問題点

B-6の問題と同様トップになるのは人手不足、クラスの数や数を少なくしてほしいということ、最後の調査項目となっている「園長にのぞむこと」にも、書かれてあった。反面すなおに自分を反省し、能力不足をなげく人もあった。

1 職員の間関係がむずかしい

2 先生方の保育に対する価値観がちがう（この中には職員同

志の対立、また若い教諭ばかりなので教えてもらうことができないと、教職員がつねに「入れ替わる」なやみをうったえているものもある）

3 幼、保一元化を希望する（この中に幼稚園の先生もいる）

4 公私立幼稚園の待遇があまりにちがいがすぎる

5 入園募集で苦しみたくない（人口過疎化の問題をなげき、心配している人もある）

6 保育所が幼稚園化されてきた

7 専門職としての確立がない

8 教職員が少ないためにつねに雑用に追いまわされている

9 残留児、勤務時間の問題（保育所）

10 中教審の答申で幼児学級ができた時、幼児に負担はかからぬだろうか、また幼稚園の特色が失なわれないだろうか

11 農村のため保育時間が長く、自分たちの力に限界を感じる

12 市立であるため独特の形態がとれぬ上に、施設、設備がわるい

13 園の保育方針と保護者の考え方にずれがある

14 産休助教など代替保育の獲得が困難

15 園児の送迎問題

16 園舎の老朽が心配

17 混合保育

18 通園バス、自家用車通園と交通安全指導の問題

19 他園との交流がむずかしい

20 保育所の所長は市の民生委員などによる名誉職のため、幼児教育のわからぬ人が多い

21 附属園だと小学校第一主義で幼稚園のことが忘れられがち

22 近くに保育所ができ、保育時間がながいことや、文字指導、

その他外見的によく見えることを喜ぶ保護者が多くなり、園児が減少しつつある

23 課長の理解なく（福祉事務所）研修会にも出席させてもらえぬ

省略した文章の中からまだたくさんの問題をかかえているように思う幼稚園や保育所の中に、中教審の答申の結果がどう現場にひびいてくるものか？ 若い先生方にもいろいろな不安をもたせていることがうかがえる。

## C-2 自分自身の反省

さすがに大多数の先生方が「自分の不勉強」を反省していることは非常に心強く感じられた。

1 研究雑誌、専門書などで自己研修をしたい

2 仕事に対してマンネリになることを恐れ、勉強はしている

つもりだが時々不安になる

3 こどもたちをわくの中にはめこまぬよう努力をつづつたい

（こどもの自由な生活にねらいをむけたいと思うのに、結果的には自分の思う通りにしてしまう、もっとこども中心に事をすすめることを勉強したい。こどもの自然の姿を大切に、

こどもに一番必要な養分を正しく与えることを考えている、一斉保育から自由保育にむけたいが大変むずかしい、こどもにもう少し親切にしたい、こどもと遊ぶ大切さを知る）

4 自分自身が情操豊かな人間になるために努力、自分自身がいつまでも若さを保つために健康体でいたい、短気でおこりたくなるのをがまんしよう

5 私ばかりでなく、最近の先生の中には幼児教育者らしくない言動や服装など見られ、残念に思うので、自分自身自己反省し、正しく明るい礼儀作法を身につけたいと思う（教育者としての資質があるかどうか人間性をたかめていきたい）

6 はやく一人前の保母になりたい（毎日毎日が勉強だと思つて努力）

7 勉強したくてもどんな勉強をしたらよいかわからぬ（無我夢中で過ごしてきたが、私はいったい何をしたのだろうか？）

8 自分の保育に限界を感じ、意欲がおきぬ

9 指導技術のゆきづまりを感じている

10 何事にも感情的になり、冷静さにかける

11 幼児帰宅後も、時間に追われて自分の反省すらできない

(明日の準備、雑務雑用)

12 大学当時の夢が、現実の制度(あるいは幼稚園のながい歴史?)に押しつぶされてだんだんとあきらまることが多くなり、不可能を可能にする情熱がとぼしくなってきた。疑問をもっているだけでは、現状に満足することより悪いことだと思う。それを改革していこうとする姿勢を忘れてはならない

この他にも数多く切実な問題をのべて自分の反省としている姿に心うたれた。多くの先生が「ほんとうの意味で正しい幼児教育者になりたい」と願っていることがどうして許されないとだろう? 12でのべておられる先生は、四年制大学を出てまだ二年の経験しかもつておられぬのに、私がいいたいことを全部細かい文字でかきつづっている。調査用紙(この項)全体の文章からのぞかれることが、在職年数を短くしていることにもつながってゆくように思われることが多かった。

### C-3 園長、または上司に期待すること

1 現場の立場を理解してほしい

2 園長は保育者の立場に立って、園長としての研究をしてほしい(一段上から見おろすのではなく、共に保育のなやみを

語り合い、全職員が向上していくように、専門職としての勉強をしてほしい)

3 職員同志の話し合う場をつくってほしい(管理職として公平に、労務管理をしっかりしてほしい(保育所))

4 小学校兼務とはいえ、幼稚園教育を知らなすぎる

5 いろいろな場所に出て、もっと視野を広くしてほしい(保育所)

6 公務員のように、私立であっても経験年数を考慮してほしい

7 地域の人たちに、幼稚園教育の独自性を知らせてほしい

8 独自の園の方針を立ててほしい(人まねでなく、園長自身の考えをはっきりきかせてほしい)

9 専任園長であることと、全面的に幼稚園の理解者であってほしい

10 園長の資格試験があればよい

11 こどもといっしょに遊んでほしい(笑顔を見せてほしい、一週間に一度でいいからこどもと遊んでほしい、こども中心に経営し、教育してほしい)

回答の文字は、大学ノートの細かい罫の中に、8ページもぎっしりぬきとって記入され、「先生方の声」は、前の項の自分自

身の反省とあわせて切実なものがある。しかしこれを読まれる園長先生方には、きつと立腹される先生があるかもしれない。私は覚悟している。とくに今回は、先生方を対象として調べ、園長先生として「教員にのぞむ」欄がなかったことは片手落ちのようにも思ったが、また何かの折に「園長として教職員にのぞみたいこと」を心ゆくまで記していただきたいと用意はしてあるが……。

この中で、先生方が「雑用が多い、雑務がありすぎる」という雑務とはいったい何をさしているのだろうか？ 自分の保育室を掃除することが雑用であったり、雑務として「いやいや」するようでは「ほんとうの幼児教育者」ではないと思う。このこと一つでも、こうした考え方のずれが、現場には非常に多いのではないだろうか？ とにかく話し合うことが必要だ。

前にも誰かがのべているように、日本の国の幼稚園や保育所の誕生の歴史にまつわる何かが、「厚い壁」をつくり、「大きな問題をひきずりながら発達し、また今後に大きな、新しい問題をつけ加えてゆくのではないだろうか？」

ながい間公立幼稚園に席をおき、園長会などの渉外活動の先頭に立って、幼稚園の制度の立法化を叫んできた私は、中教審の答申を出されるために、幼稚園関係のことが一番重要問題と

して、多くの方々の頭をなやましたことだときいて、ほんとうに喜んでいた一人だったのに……。どんなに制度に守られても、やっぱり公立幼稚園には、昔からしみついた「しみがあってどうにもならない」ことを公立幼稚園の現状からよみて残念に思う。

しかし、どんなに「ゆれうごく幼児教育界」でも、先生たちが目の前の子どもたちを幸せにすることができないはずはないと思う。先生方、ひとりひとりが「正しい幼児観」をもって、楽しい健育的なあそび相手をしてくださるならば、「ひとりひとりが責任をはたしてくださるならば」、園長先生がたは、その誠意にこたえてくださるだろうと、私は思う。私は、そうした先生を一人でも多く養成し、送り出したいと思っている。

(一九七二、九月、聖徳学園短期大学教授)